

呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

(泌尿器科外来・病棟)

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問合せ先にご連絡ください。

① 該当者	2007年1月1日～2022年12月31日の期間に当院にて腎細胞癌と診断され、治療を受けた患者さん			
② 研究課題名	分子標的薬時代における転移性腎細胞癌患者の予後と予後因子の検討			
③ 実施予定期間	2019年5月～2025年12月			
④ 実施機関	呉医療センター・中国がんセンター			
⑤ 研究代表者	氏名	松原 昭郎	所属	広島大学病院 腎泌尿器科 教授
⑥ 当院の研究責任者	氏名	繁田 正信	所属	呉医療センター・中国がんセンター 泌尿器科
⑦ 使用する試料	<p>収集する診療情報は下記の通りです。</p> <p>性別・生年月・身長・体重・腎癌診断日、生検日など治療情報を含む臨床情報・血液学的検査結果・生化学検査結果・治療に用いた薬剤情報・病理標本用に使用されたパラフィンブロック</p> <p>※上記診療情報は、研究終了後5年間もしくは、研究結果の公表後3年間のいずれか長い期間まで厳重に保管され、その後適切な方法で破棄されます。</p> <p>診療情報は研究事務局および当院の研究担当者両方において保管されます。</p> <p>※当院の研究者、研究代表者、研究事務局などが収集した情報を取り扱います。</p>			
⑧ 目的	<p>転移性腎細胞癌に対して分子標的薬が次々と用いられるようになり、従来に比較して生存率の改善が報告され、転移性腎細胞癌に対する治療戦略は大きく変わりつつあります。その一方で、我が国における転移性腎細胞癌の適正なリスク評価、予後予測や分子標的薬の至適な投与方法などについてはいまだ確立されておらず、治療戦略の確立のためには多数の患者さんの情報を検討することが必要とされています。</p> <p>この研究は、分子標的薬投与前の情報、選択薬剤とその効果、予後を調査することで、転移性腎細胞癌に対するより有効な分子標的薬の投与方法を明らかにすることを目的としております。</p>			
⑨ 方法	<p>対象患者の生存期間、生存期間に関与する可能性のある臨床情報、その他の情報収集を後方視的に行い、調査票を広島大学腎泌尿器科学講座に郵送します。これらの情報を広島大学大学院医歯薬保健学研究科腎泌尿器科学にて集計し、データ解析を行い、転移性腎細胞癌に分子標的薬投与が行われた患者の生存期間、生存期間に影響する因子を同定します。</p> <p>また、病理標本用に使用されたパラフィンブロックを用いて免疫染色、特殊染色を行い、予後に関わる因子を同定します。ブロックの郵送と返却についてはクール便を使用します。</p>			
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2019年5月22日		
	院長承認日	2019年5月22日		
⑪公表	個人情報保護は確保したうえで、研究成果を学会や医学論文などに発表することがあります。			
⑫プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報は一切使用しません。			
⑬知的財産権	将来、この研究の成果が得られ、知的財産権が生じる可能性もありますが、その権利は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。			
⑭利益相反	本研究では、利害の衝突は一切生じません。			
⑮問い合わせ	連絡先	繁田 正信	電話	0823-22-3111(代表)
	呉医療センター・中国がんセンター 泌尿器科			

呉医療センター・中国がんセンター院長